

県士会 ニュース

No.
219
[2023.2]

Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

Contents

TOPIC

2 第1回 絵本でみる作業療法

- 1 巻頭言
- 2 第19回神奈川県作業療法学会 演題募集要項
- 3 各部からの報告
- 5 公益社団法人格取得への道
- 6 理事会議事録
- 10 2022年10月度理事会 部員承認
- 10 事務局からのお願い
- 10 編集後記

巻頭言 | 対外広報活動の取り組み



広報部 対外広報班長 清野 由香里

広報部では本ニュースの発行などの活動の他に、様々な立場の方に作業療法と当団体について知って頂くことを目的とした「広報活動」も行っております。今回、対外広報班の活動紹介と、今後注力していく取り組みについて、大きく4つに分けて紹介させていただきます。

まず1つ目は「これから神奈川県士会員になる方への広報」です。主に神奈川県内の養成校に在籍する方々に対する広報活動です。これまでは養成校卒業時に県士会の案内を送付するにとどまっていたのですが、昨年度より広報部員が養成校に出向き、当組織の意義や会員となる意義について説明する機会を積極的に設けることにしました。「成長する神奈川県士会」をテーマとした当会の活動の課題の一つに「作業療法士は如何にその専門職としての存在意義を医療・福祉・介護・就労・教育・行政・自治体等に表出できるのか」とあります。そのためにも職能団体の組織力の強化も重要です。これからOTRとなる方へは、一人一人が職能団体に所属することの大切さを説明していきたいと考えています。開催は会場・オンラインの両側面を実施とし、神保会長・広報理事等より挨拶を頂いております。

次に、「これからOTを目指す方への広報」です。この活動は、これから進路選択として作業療法を選択する可能性がある中高生に対する広報活動です。現在、臨床の作業療法求人募集は多いのに対し、残念ながら養成校入学者は減少傾向にあるようです。このミスマッチにどう対応するかも広報の重要な役目と考えています。以前も作業療法について直接中高生に話す場を設ける「職業講話」を行っていましたが、新型コロナウイルスの流行で一時中断していました。今後はwithコロナの時代として対面の職業講和も再開傾向にあり、広報部としても、その機会も徐々に増やしていきたいと思っています。

第3に、「神奈川県民の方への広報」もあります。神奈川県民の方は、今後いつかOTを活用するかもしれません。いざとなった際の作業療法の活用にむけて、名前だけでなく作業療法とはどんなリハビリテーションなのかを知って頂けたらと考えています。こちらでもwithコロナの時代を踏まえ、十分に感染対策に配慮しながらも積極的に市民まつりや行政主催介護フェア等への出展をしてゆく予定です。また以前ラジオ日本で峰竜太さんのラジオ番組に出演をさせて頂いたことがありましたが、この度、1月にラジオ日本の介護・福祉関連企業提供番組「ロイヤル介護相談室」に部員が出演致しました。また、3月にも横浜市内のローカルラジオ局で作業療法士の視点を踏まえた防災をテーマに出演予定です。この他にも県民の方へ直接リーチできる広報は引き続き展開して参ります。

そして最後に「医療福祉職の方への広報」があります。ケアマネージャーをはじめとする関連職の方へ具体的に作業療法士はどのような仕事ができるのかを伝えるべく、関連学会への参加、他業種に出会うイベントへの参加を積極的に行い、そこでの交流を通じ理解を深めて頂くようにしたいと考えています。また今後はオンラインイベントでの作業療法士の参画も検討して参ります。

対外広報の課題として、SNSの活用はととても重要であるとも認識しています。作業療法と当会へ未だつながりの無い方へ、直接リーチできる重要な手段と捉えています。今後SNSを活用した広報にも注力する所存です。

ここまでの紹介以外にも広報の役割、可能性はまだたくさんあると思います。会員の皆様もアイデアがございましたら、是非当会事務局までご意見・ご助言をお聞かせください。部員も常時募集中です！広報部をどうぞ宜しくお願いいたします。



作業療法をアップデートしよう！皆さんの演題をお待ちしています 第19回神奈川県作業療法学会 演題募集要項

演題委員長 神保 洋平

- I. 会期：2023年10月15日（日）
- II. 会場：茅ヶ崎市民文化会館
- III. 受付期間

本学会では以下の手順で受付を行います。抄録提出の前に「発表意思の表明」を行なってください。この手続きは、演題発表に向けたコミットメントを示すものです。是非ご活用ください。

- Step1: 2023年1月20日（金）～2023年3月20日（月）
（発表意思表明）
- Step2: 2023年3月21日（火）～2023年4月20日（木）
（抄録提出）
- Step3: 2023年6月21日（水）～2023年8月20日（日）
（発表動画提出）

また、本学会の取り組みとして、演題発表支援を行っております。是非ご活用ください。

IV. 募集内容と発表形式

1. 募集内容

本学会での学会発表は全て口述発表となります。本学会は会場参加とオンラインのHybrid学会で開催する予定です。発表方法については演題採択後にご連絡します。（演題数によっては一部オンライン発表のみとなる場合がございます。）

V. 応募方法

- 1. 演題応募：第19回神奈川県作業療法学会ホームページ（左上QRコード）から、「発表意思表明」し、登録フォーム

に必要な事項を入力ください。その後、「抄録提出」を期限内に行なってください。

VI. 演題応募に関する問い合わせ

第19回神奈川県作業療法学会
演題委員会委員長：神保 洋平
Email: jinbo-y@crc.ac.jp

学会演題委員長：コメント

学会はアカデミックなお祭りです。発表に二の足を踏んでしまう方もいると思いますが、私の経験では、学会発表は自分の作業療法人生をととても豊かにしてくれます。

その理由は3つあります。1つ目は、発表を通して思いがけない出会いがあります。同じ問題意識を持っている仲間との出会いは、皆さんが抱えている臨床の課題を解決する大きな支えとなるでしょう。2つ目は、活動の場が広がります。学会での出会いから勉強会のお誘いや、職場以外のコミュニティをつくる絶好のチャンスです。3つめは、何よりも自信になります。皆さんの日々の実践が自分の所属している施設の枠を超えて、実践の内容や日々の苦勞を認めてもらえたり、建設的な意見をもらえたりします。自分の実践が学会という場で発表できた達成感は皆さんを大きくしてくれます。

この学会をきっかけに全国学会や臨床研究の着手につなげていただきたいと考えております。皆様のユニークな臨床の実践を形にしてみようではありませんか。学会運営スタッフ一同皆様の演題を心よりお待ちしております。



絵本でみる作業療法

「絵本でみる作業療法」のコラム連載！

自分の子供や友人に作業療法について説明する際に苦慮した経験はないだろうか。言葉足らずになってしまったり、哲学的になってしまったりして、なかなか上手く伝わらない。それが影響しているのか、医師や看護師、薬剤師、理学療法士などに比べてその認知度は低い。作業療法を体験してもらえれば話は早いのだが…。そんな思いから生まれたのが「絵本でみる作業療法」である。作業療法の魅力を特に中高生にわかりやすく知ってもらうために筆者の臨床体験をもとに作られた絵本である。閲覧数は少しずつ増えてきたが、まだ一部の人にしか知られていない。そこで今回、県士会員の皆さまに「絵本でみる作業療法」を知ってもらうためにコラムを連載することになった。「絵本でみる作業療法」の10のヒミツに因んだ臨床の中で使えるヒントも合わせて届けていきたい。ぜひ楽しみにしていて欲しい。

（文責：ウェブサイト管理委員会）

県士会サイトも是非みてね！
<https://kana-ot.jp/wpm/p-book/>

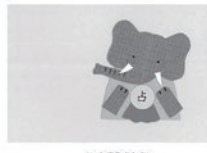


作品一覧



No.1 虎屋さんの空手

左半身が麻痺してしまった床屋を営む「まことさん」の社会復帰物語。



No.2 ぞうさんぶい

難病ALSを患った「さとしさん」が、生きがいを取り戻すまでの物語。



No.3 その笑むら獅子

認知症を患った「きくさん」が、自分自身を取り戻す物語。



No.4 舞はバレリーナ

バレリーナの娘に生涯を捧げた「キミコさん」と夫。今を受け入れ、再び娘の舞台を観に行くまでの物語。



No.5 必殺、穴熊闘い

転落事故で身体を思うように動かせなくなった「ゲンさん」が、将棋を通して体力・気力を回復させる物語。



No.6 貝になった画家

苦しくて統合失調症を患った「けんじさん」が、得意な絵を描くことで病気を上手く付き合えるようになった物語。

各部からの報告

▶ 学術部 学術部研究助成班からのお知らせ

(文責：学術部 佐々木 秀一)

2022年度の研究助成事業の支給者決定

本年度の申請者は、研究Ⅰ（研究組織 2 法人以上の一般会員）が 1 名、研究Ⅱ（研究代表者は免許取得 7 年目以下で、研究組織は 1 法人以上）が 1 名の計 2 名でした。書類審査および合議審査の結果、下記の 2

名に対し助成金を支給することになりました。

学術部では全県士会会員に対し、積極的に研究を支援する体制を作っていくたいと思っております。来年度も研究にチャレンジしてみたい方、若手の方などの多くの応募をお待ちしております。

研究組織	氏名	所属	研究内容	助成金額
研究Ⅰ	中西 理佐子	横浜南共済病院	関節リウマチ患者に対し 3D プリンターで作成した手指装具の有効性の検討と新たな課題解決に向けた研究	199,372 円
研究Ⅱ	千葉 周平	北里大学病院	急性期脳梗塞患者に対する初期臨床症候診断分類と上肢運動機能状態やその後の機能改善の関連	199,260 円

論文掲載のお知らせ

2010 年より開始された神奈川県作業療法士会 研究助成事業ですが、「作業療法」や「神奈川県作業療法

研究」で論文化されています。身体・精神・小児など様々な分野が助成事業の対象となり、論文として掲載されていますので、ぜひご覧ください。

助成年度	論文タイトル	著者	投稿先
2010	小学校訪問における神奈川県内の作業療法士のニーズ調査	永井 夏子	神奈川県作業療法研究 3 (1) : 21 - 25,2013.
	作業選択意思決定支援ソフト (Aid for Decision - making in Occupation Choice : ADOC) の内容妥当性 (Content Validity) の検討	長山 洋史	神奈川県作業療法研究 2 (1) : 13 - 17,2012.
2011	作業療法におけるトップダウンアプローチとボトムアップアプローチの実施状況 - Web アンケートを使用した調査 -	大野 勘太 友利 幸之介	神奈川県作業療法研究 4 (1) : 11-17,2014.
	生活時間調査による重症心身障害者の作業に関する検討	杉山 いずみ	神奈川県作業療法研究 4 (1) : 33 - 39,2014.
2012	作業療法士が単身生活の可否を判断する際に重要視していること - 作業療法士の経験に基づくチェックリストの作成に向けた予備的検討 -	福嶋 祐子	神奈川県作業療法研究 5 (1) : 29 - 35,2015.
	筋萎縮性側索硬化症者における生活ガイドブック作成の試み	鈴木 朋代	神奈川県作業療法研究 8 (1) : 31 - 37,2018.
2013	神奈川県の小学校通常学級に対する作業療法の介入方法に関する研究	笹田 哲	神奈川県作業療法研究 6 (1) : 21 - 24,2016.
	精神科長期入院者に対する作業に焦点を当てた実践についての一考察 - 作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) を用いた単一事例研究 -	松岡 太一	神奈川県作業療法研究 6 (1) : 33 - 40,2016.
2014	発達障害児をもつ保護者の子どもの整理整頓における悩みとその対応	山本 浩暉	神奈川県作業療法研究 8 (1) : 15 - 21,2018.
2015	片麻痺患者の手指伸展補助のテーピングが手指機能へ及ぼす影響	林 慎也	神奈川県作業療法研究 11 (1) : 43 - 47,2021.
2017	作業療法のクリニカルリーズニング評価尺度の開発 - 内容妥当性の検討 -	丸山 祥	作業療法 40 (6) : 784-792,2021.
2018	精神科スーパー救急病棟における作業療法実践の困難さ 勤務する作業療法士達の語りにおける計量テキスト分析をふまえて	佐藤 範明	神奈川県作業療法研究 11 (1) : 49-53,2021.
	重度上肢麻痺患者の麻痺手を生活に転移させるための方略 - インタビューを用いた質的研究 -	萩原 祐	神奈川県作業療法研究 12 (1) : 10 - 18,2022.
	心臓血管外科術後のせん妄発症予防のための効果的な作業療法実践の検討：せん妄発症事例から得られた示唆	佐野 邦典	神奈川県作業療法研究 12 (1) : 1 - 7,2022.

各部からの報告

▶ 制度対策部 大規模災害を想定したシミュレーション訓練の結果報告について

(文責 制度対策部災害対策班 班長 宮田 和典)

2022年9月25日～2022年10月25日に大規模災害を想定したシミュレーション訓練を実施しました。今年度の参加者が157名であり、昨年度の50名よりも多くの方に参加して頂きました。ご協力して下さった県士会会員の皆様に感謝申し上げます。

このようなシミュレーション訓練は日本作業療法士協会を中心に、各都道府県士会で同時に実施されております。各士会の平均参加率は52.2%であり、地震や台風被害などに見舞われた県では参加率が高い一方で、本県のように会員数の多い県では参加率が低くな

ような傾向がありました。そのため、今後もより多くの会員の皆様に参加して頂けるように、他県士会の取り組みや今回頂いたご意見を参考にして次年度の訓練に取り組んでいきます。

2022年の神奈川県では台風や大雨、震度5弱の地震などがありました。万が一の大規模災害に備えて、平時よりこのような訓練をすることはとても重要なことです。来年度もぜひ多くの方に参加して頂けますよう、ご協力をお願い致します。

▶ ウェブサイト管理委員会 県士会サイトコンテンツ紹介

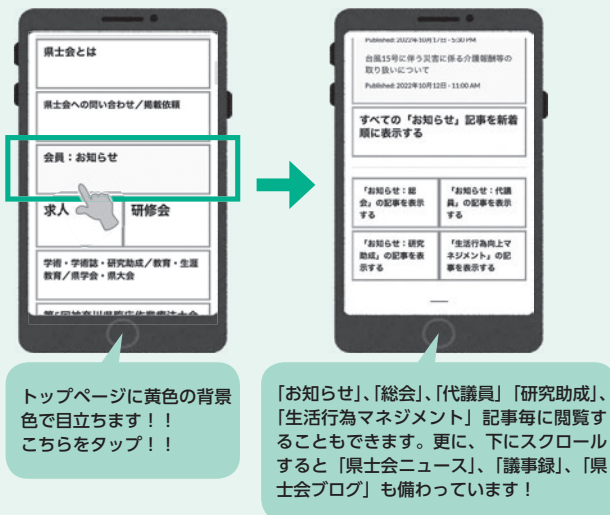
(文責 ウェブサイト管理委員会 佐藤 範明)

県士会サイトでは、会員の皆様に有益な情報が届くよう日々運営に努めております。研修会や求人情報のみならず、臨床で活用できる情報や日常生活に関連する様々な情報発信を行っております。

今回は、臨床以外の日常に関連する様々な情報がキャッチできる方法をお教え致します。

その1つは「会員：お知らせ」コンテンツです。こちらのコンテンツは会員に関連する情報がまとまっております。「総会」、「代議員」、「研究助成」、「生活行為マネジメント」、「県士会ニュース」、「議事録」、「県士会ブログ」と多岐にわたります。多部署からの情報は勿論、他団体からの情報も掲載されております。きっと情報の中には皆様の生活に親密で有益な情報もあるかと思えます。ぜひ一度閲覧してみてください。

図)【会員：お知らせ】(スマホ Ver.)



▶ 広報部・対外広報班

(文責 水野 友和)

令和4年12月19日にラジオ日本 (FM92.4MHz、AM1422kHz) の「ロイヤル介護相談室」に出演しました。「ロイヤル介護相談室」はお笑い芸人のレギュラーのお二人がパーソナリティを務め、アドバイザーである神奈川ロイヤルの星野千鶴さんと共に高齢者にまつわる疑問などをゲストとともにお伝えする番組です。

放送日時は令和5年1月13日、1月20日の金曜夜22:15～22:30でした。1月13日は「心と体のリハビリ」として作業療法士の仕事や、作業療法士の活躍の場などの話、1月20日は「認知機能低下の予防」として認知機能を維持していくためのお話をしました。

対外広報でのラジオ出演は平成25年以来、9年ぶりとなります。久々のラジオでの広報活動で緊張しま

したが、レギュラーのお二人と星野さんにフォローしていただきどうにか収録を終えました。番組内では「OTのあるある」について振られる場面があり、「色々な人の箸の持ち方を観察してしまう」話をしました。はたしてこれが「OTあるある」として会員の皆様に共感して貰えるか不安はありますが、少しでも「あるある」と思ってくれる方がいたら嬉しいです。次の機会には多くの会員から共感の嵐を呼ぶような「OTあるある」を準備できたらと思います。

今後も、このようなラジオ出演を通して作業療法や作業療法士のお仕事を少しでも多くの方に知ってもらい、作業療法士を目指す人も増やすきっかけにもなるよう広報活動に取り組んでまいります。

各部からの報告

▶ 地域リハビリテーション部 地域リハ部主催 OT 地域ミーティングを終えて

(文責 宮本 啓太)

2022年11月11日に地域リハ部主催 OT 地域ミーティングがオンラインで開催されました。今回の OT 地域ミーティングでは「地域共生社会で作業療法をどのように活かせるかみんなで考えてみよう」をテーマに、さがみリハビリテーション病院で訪問リハビリ部門を担当し、地域支援事業にも従事されている佐藤隼さんにご講義をいただきました。

回復期病棟勤務時の失敗体験から訪問リハビリでの作業療法らしさの再認識まで、自らの経験をお話いただきました。その中で、対象者の持つ経験や思いを引き出すことが主体的な参加に近づくという点は、病院勤務であっても患者様の退院後の地域社会生活を考える上で大切であると改めて学ばせていただきました。

また、現在、佐藤さんが地域支援事業で行っている介護予防教室や認知症サポーターネットワーク、地域ケア会議などについてご紹介いただきました。地域支援の一例として、さがみはら認知症サポーターネットワークで参加者の方とスキーに行った際の映像を見せ

ていただきました。生き生きとした姿で参加者がスキーをしている様子は、臨床では感じられない地域作業療法ならではの魅力だと思いました。

地域支援や個別的な支援まで、地域で作業療法士が活躍する場は多岐に存在しています。地域包括ケアシステムが推進されていく中で、作業療法士の地域参加の実際の経験を聞き、障害に応じて分け隔てなく生活を支援できることは、今後の共生社会へ向けた作業療法の可能性を感じる内容でした。

トークタイムでは、「作業療法の専門性を一言で表現してみよう」という内容をグループディスカッションしました。私のグループでは、作業療法の専門性は「活動・参加を支援する仕事」という結論に至り、どの領域でも地域へ繋げることを意識していることも知ることができました。参加者の方の地域支援の経験なども踏まえてお話を聞くことができ、とても勉強になる地域ミーティングとなりました。

公益社団法人格
取得への道

「2022年度第1回県民公開講座(プレ公益目的事業)」活動報告
～見えてきた！当会における公益目的事業が成す目的～

公益法人化対策委員会 澤口 勇

令和4年11月26日(土)当委員会としては昨年度から引き続き2回目となる「県民公開講座(オンライン)」を開催することができました。今回の内容は「障害者権利条約 日本初の対日審査の結果から学ぶ～障害者の暮らし・共生社会のあり方について～」と題し、きょうざれん 常務理事の赤松英知氏にご講演を頂き、前回同様に今回も参加者総数のうち7割以上の一般市民の参加を得ることができました。その内訳も当事者やご家族の方をはじめ、看護師や精神保健福祉士、理学療法士ほか就労支援員や特別支援学校教員の方、行政の方、福祉用具を開発・販売する企業の方、高校生の方など本当に幅広くご参加頂きました。また地方からは東北や宮城県からの参加もあり、ZOOMの持つ特性でしょう、地方にいながらも同時刻にスマホやパソコンの画面上から神奈川のイベントに参加できるというこの利便性には大変驚きました。

今回のテーマは「障害者の人権」。参加者の感想を伺うと「対日審査の結果から、我々が日々の実践を振り返り、権利条約という指針を基に議論を積み重ねていかねばならない」「障害者という考え方を改めて考えさせられた時間」「権利条約の経緯や優生思想は、我々の向き合う現実的な課題で多大ということが共有された」「医学モデルでもない、社会モデルでもない、人権モデルという言葉を初めて

知った」「自分も大学時代に精神科の病を抱えた当事者。その後精神科病院で医療従事者として働いたが、障害を理由に雇用形態で差別を受けた。現在の社会では障害を隠さなければ一般的な就労に結びつかず、ますます障害者とは保護される対象であり人権は二の次だ。でも改革していきたい」(一部加工して原文のまま掲載)など。

感想を手にして気づきました。これらに共通しているのは「個人の力では解決できない社会的課題」ではないかと。社会的課題とは、社会の欠陥や矛盾から生じる諸問題のこと。個人に起因することではありません。個人では解決できない諸課題は団体として取り組む。これがつまり、我々作業療法士会が公益目的事業を成す目的の一つになると確信しました。

次の県民公開講座の企画ですが、3.11が近いです。「福祉避難所」をテーマにオンラインによる公開講座を行います。詳細は県士会HPをご覧ください。

ただ地域にいて隣に一緒にいるだけが共生社会ではありません。共同創造(Co-production)を目指しませんか?作業療法士が誰もが人権に向き合う社会づくりの一役になれるよう、作業療法士会は団体活動を通して当事者やそのご家族の社会参加を手助けして参る所存です!その活動の主役は、会員の皆様ですよ!

理事会議事録

★ 2022 年度 第 5 回理事会 議事録 2022.9.22

日 時：2022 年 9 月 22 日（木）19：00～21：46

場 所：オンライン開催のため各自自宅・職場

出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、金山桂（副会長）、吉本雅一（事務局長）、玖島弘規、佐々木秀一、奥原孝幸、佐藤隼、遠藤陵晃、野本義則、神田崇央、佐藤範明、木村修介、望月強併、澤口勇、西川航平（16 名）

欠席理事：戸塚香代子、大郷理事（冒頭のみ）（2 名）

出席監事：錠内広之

欠席監事：野々垣睦美

I . 会長より挨拶

新型コロナウイルス感染症流行は少しずつ落ち着いてきたが、未だ重症者数は多く予断を許さない状況は続いている。11 月に予定している理事会を含めて対面式イベントの開催については状況を見て判断していきます。

II . 報告事項について（トピックス）

【トピックス】

- 第 19 回神奈川県作業療法学会 大郷実行委員長より
第 19 回神奈川県作業療法学会の企画案、会場の予約方法、予算案の詳細について説明。仮テーマは「ダイバーシティ&インクルージョン～それぞれの個を尊重し、認め合い、良いところを活かすこと～」となった。オンラインと会場のハイブリット開催を予定。内容は学会長講演、市民講座、ビギナー、ビギナー発表、ワークショップ、指定演題、書籍販売、機器展示等を検討。開催時期は 2023 年 10 月から 12 月を予定。オンライン開催は配信支援業者に委託する予定。会場は茅ヶ崎市民文化会館を候補として進めて抽選に応募する。
〈質問等〉
○万が一キャンセルする場合、規定は確認し共有してほしい
→確認した後日理事会に共有する

III . 審議事項について

- 後援名義使用について
日本転倒予防学会第 9 回学術集会の後援名義使用→承認
- 最低賃金引き上げに伴う事務局員給与支給額の変更→承認
〈意見交換〉
○試算した合計時間と増加額は 3 名分の総額か
→その通り
○事務員の給与の相場についてはどの程度なのか
→詳細な相場を調査 他の団体も可能であれば調査
→今後も給与の改定は続くので根拠を示して最低賃金+αなど規定できると良いと考える
→当会の財務状況との照会は必要だが今後も長期雇

- 用できるように規程を整えると良い
- 総会規則の改訂について（規約委員会）→承認
社員提案権について社員総会へ議案を提出する
〈意見交換〉
○動議（修正動議）について明確となった。方法の詳細も今回の提案に含まれており適正と理解した
○今年度の定款・規程修正の内容と量を鑑みると理事の役割の範疇を超えている。理事がリードし検討することは必要だが、専門家の適切な協力も必要。
→予算委託料を使用して必要に応じて専門家に相談
○社員総会日程は代議員に事前に伝える必要がある
→今年度も早期に日程を伝えている。議案書の送付も早期に送付できるよう各部署の協力を依頼

IV . 報告事項について（各部署・理事）

【各部署】

- 事務局
 - Zoom ミーティング予約ならびにイベント・会議等の予定調整についての再周知
 - X ドライブ運用について
ダウンロードのみの運用。種々のマニュアルや理事会等の資料などを保管。必要時に閲覧ダウンロードが可能。
 - 研修会マニュアル説明会について
事務局、学術部、財務部共同で年 1 回説明会を実施予定
- 財務部
 - 中間監査について
10 月 8 日（土）に実施予定。上半期事業が終了しだい順次書類の発送を依頼。10 月 5 日書類必着締め切り。
 - 研究助成事業用会計マニュアルについて
研究助成事業用の会計マニュアルを作成。今年度の研究助成から使用する。
- 福利部
 - 施設見学会について
8 月 18 日、23 日、24 日開催。各 1 名計 3 名の高校生が参加。内容、特徴などについて説明し質疑応答。可能な範囲での臨床場面のオンライン見学も実施。
今後のイベント開催広報について県教育委員会から助言。政令指定都市を除く市町村には県教育委員会より周知できるため今後連携していく。
 - 新入会員オリエンテーションについて
ホームページにて動画を公開する予定
- 制度対策部
 - 安否確認システム運用訓練について
9 月 25 日（日）県士会安否確認システム訓練及び理事役員安否確認訓練を実施する。会員のおよそ 1 割、200 名（昨年度 49 名）参加を目標、啓発の協力を依頼。
- 規約委員会
3 年前より各部委員会のマニュアルを収集している。

どのようなものがマニュアルに当たるのか例を示すので、各部署で作成された場合は共有。

6. ウェブサイト管理委員会

(1) 不審メールについて

県士会アカウントのメール宛に不特定多数を狙った不審なメール多数あり。宛先の分からないメールや怪しいメールを受信しても開封せず削除の対応を依頼。

7. 学会評議委員会

(1) 第5回神奈川県臨床作業療法大会について

佐藤隼実行委員長、神保大会長より進捗状況を報告。拠点はTKP ガーデンシティ PREMIUM 横浜西口を使用する。テクニカルサポートも受ける予定。現在申し込み者は7名。広報手段はチラシを2500枚会員へ配布し、500枚公共施設に配架予定。一般県民向けの申し込み方法はPeatixだけでなく他の方法も検討し、市民向けのチラシも作成予定。

8. 認知症対策委員会

(1) 認知症アップデート研修会

10月5日(水) 19時30分開催 講師 森山氏・弘中氏

(2) 認知症に関する士会活動報告について

日本作業療法協会からアルツハイマーデイにあわせて「認知症に関する士会活動報告」の依頼。認知症啓発事業(RUN 伴+三浦半島)、家族の会との連携、研修会について、新型コロナウイルス感染症の影響について報告。

9. 生活行為向上マネジメント委員会

(1) 研修会(9月3日開催)報告

参加者計32名(正会員29名、非会員3名:静岡県、東京都、千葉県)。今回初めてPeatixを使用した負担が少なく円滑に使用できた。今後も当会として活用を継続するメリットを強く感じた。次回の研修会は2月を予定。

【理事】

1. 田中副会長・神保会長

(1) 40周年記念プロジェクトチームより

進捗状況について報告。12月で本事業は終了する予定。Zoomで使用できる背景もダウンロードできるのでぜひ周囲に使用を促してほしい。世界アルツハイマーデイに合わせてロゴマークのオレンジバージョンも掲載
記念誌はまもなく完成する予定。チャレンジ動画に関しても順次作業を進めている。

(2) 渉外報告 日本作業療法士会47委員会について

2023年役員改選と組織改編、2024年医療介護福祉トリプル改訂(特に訪問看護ステーションにおける看護・リハビリテーション職の割合についての課題対応が重要)、アジアパシフィック学会(北海道)、総合臨床実習の内容の検討、2026年度日本作業療法士協会60周年について、教育体系の見直し、第4次5か年戦略(地域共生社会の構築)、組織力強化(入会年間500名増を目指す)、2023年度重点

活動項目について、ブロック情報交換、全国作業療法士連携協議会(よんぱち)規程案について、国際部APOTCについて、災害対策室シミュレーション訓練について、地域保健総合推進事業の調査依頼について、LGBT+ガイドライン作成のための報告とアンケート調査広報について、謝金規程改定に関する依頼について等に関して報告。

〈質疑応答等〉

○謝金規程改定に関する協力について

→当会はすでに情報提供の協力を実施

○LGBT+ガイドライン作成について

→対象は国民、県民、市民に向けた内容となる予定。加えて養成校の学生向けも想定している。

○神保会長より

小川かつみ氏の参議院選挙落選を受けて、リハビリテーション職能団体では危機感が増した。各団体の組織力向上と団結力の結集がますます重要。各協会が連携協働して政治力を発揮し、今後の制度の改定や職域の確保、専門性の活用などに影響力を発揮していくことが望まれる。

2. 金山副会長

(1) 研修会ワーキンググループ報告

7月13日開催。マニュアル管理とウェビナーについて検討。研修会開催にあたり相互交流を伴う研修もあり、ウェビナー使用で研修が行いにくくなるという意見多数。

→公益法人化対策委員会ではウェビナーの使用を検討中。今後使用に関する提案相談を行う予定。

(2) 選挙ワーキンググループ報告

8月17日開催。代議員選挙マニュアルの修正を開始。完成は10月を予定。今年度実施予定の役員選挙は、選挙管理委員会の発足から開始する。

V. 確認・検討事項

1. 対外広報活動について

「海老名おでんナイト」へ広報部対外広報班の参加を予定。当会主催ではなく例年参加していない対面イベントのため、理事会の意見を伺い参加に関して確認を行った。

〈確認・意見交換等〉

○開催目的と当会の広報の目的が合致しているのか。

→飲食に関するイベントであるが飲食に関わる自助具の紹介、体験ブースの出展を計画している。

○主催者感染予防対策に関しての詳細を示してほしい。

○対外広報は重要であるため積極的には進めてほしい。予防対策も大切ではあるが罹患した場合の対策も検討しておく必要があるのではないか。

○参加する基準を検討しておくとの良いのではないかと。

一部地域に限られないように検討してほしい。広報戦略を立てたうえで参加を検討してほしい。

→広報部内でも検討する。

○神奈川県介護フェアは神奈川県が例年主催し参加し

ているイベントである。多団体との協働事業であり、目的も相違なし。感染予防対策も問題なし。

→予定通り出展する。

【結論】

概要と目的を明確に提示し、感染予防対策を理事会で確認したうえでイベントへの参加を改めて検討する。主催者と連携し 10 月 15 日までに理事会へ報告確認する。

2. ホームページ掲載内容について

一部個人的なブログや研修会案内などへ誘導するリンクが存在。個人的な利益に繋がる、繋がるのが懸念される内容を掲載することは望ましいのかを確認した。〈意見交換等〉

○ウェブサイト管理委員会規定として県士会ホームページ記事掲載基準はホームページに掲載されている。

(理事会または事務局長が許可したものとある)

担当理事としては今回のような内容は掲載をしない方が良く感じている。

○個人の利益に繋がりがねない情報のリンクを掲載することは控えた方が良く感じる。

○ホームページは公益な広報であるため個人運営のブログを掲載していること自体が問題なのではないか。

○対象とされている会員の今までの活動に関しては感謝している。掲載をしないにしても、イベント等で協力してもらえるように配慮してもいいのではないか。

○教育を目的としている点は非常に有意義ではあるが個人名や著書に関しての情報への誘導の掲載は難しい。研修会情報の掲載であれば正規の方法で申込み掲載を。

○ブログ掲載全てを精査する必要があるのではないか。

〈結論〉

個人の利益に繋がる情報の掲載は控える。当会ホームページブログ掲載について精査し、他県士会の対応等についても情報収集を行う。掲載基準と照らし合わせて該当する掲載者には連絡説明をする。

3. 組織改編について

神保会長より具体的な組織図と今後のスケジュール、組織改編の骨子について説明。10 月の理事会での意見交換検討を予定。メールも活用し理事の意見質問を募る。

VI. その他 連絡事項等

1. 議事録署名人について

吉本事務局長から指名があり決定する。神保会長、錠内監事、佐藤隼理事、西川理事。

2. 組織図について

40 周年記念誌、ホームページには現規程に則った組織図を掲載する。

3. 公益法人化対策委員会企画の広報協力について

チラシを共有し周囲への周知広報の協力を行う

4. 公式 LINE アカウントについて

現在登録者は 200 名。月の配信可能件数は 5 件まで。掲載したい内容がある場合は佐藤隼、佐藤範明理事に

相談。

5. 監事より

(1) 錠内監事

第 56 回日本作業療法学会に参加。現地で直接お互いに顔を合わせて交流や意見交換が行えることは非常に有益だった。今後当会でも感染予防対策を適正に行いながら、対面でのイベント等の開催方法を検討してほしい。

以上 (文責：事務局長 吉本 雅一)

★ 2022 年度第 6 回理事会 議事録 2022.10.19

日 時：2022 年 10 月 19 日 (水) 19:00 ~ 21:33

場 所：オンライン開催のため各自自宅・職場

出席理事：神保武則 (会長)、田中ゆかり (副会長)、金山桂 (副会長)、吉本雅一 (事務局長)、玖島弘規、佐々木秀一、奥原孝幸、佐藤隼、遠藤陵晃、野本義則、神田崇央、佐藤範明、望月強併、澤口勇、西川航平、大郷和成 (16 名)

欠席理事：戸塚香代子、木村修介 (2 名)

出席監事：錠内広之 (1 名)

欠席監事：野々垣睦美 (1 名)

I. 会長より挨拶

組織改編について引き続き検討していきたいと思います。11 月度理事会は対面での開催を現段階では予定します。

II. 審議事項について

1. 第 25 回日本医療ケアマネジメント学会学術総会 後援名義使用について →承認
2. 部員・委員の承認について →承認
3. 賛助会員 A 申請について →承認
4. 復会について →承認
5. 定款第 36 条 2 項の変更及び選挙管理規程第 20 条の変更について →承認
6. 定款第 48 条の変更について →承認
7. 理事会規則について →承認

III. 報告事項について (各部署・理事)

【各部署】

1. 事務局

- (1) 事務所の使用申請について (再確認)
2 週間前までに事務局長と事務局に相談。物品の使用も同様。部外者が事務所内に入室する場合も必ず相談。

2. 財務部・監事

- (1) 中間監査報告
10 月 8 日に実施。概ね健全に遂行されているが、引き続き部署長は事業遂行ならびに会計に関して管理責任を持って適正な運営を継続するよう努める。

3. 広報部

対外広報班の活動参加について最終確認。現社会状況を踏まえると参加への疑問点は残るが、市民・県民に

に向けた活動は大切。感染対策を厳正に行ったうえで実施することが担保されたため、開催当日の状況を踏まえて出展する。一般市民だけでなく当事者の社会参加も推進できるよう努める。また当会の賛助会員の募集も併せて行う。

4. 制度対策部

- (1) 2022 年度安否確認システム運用訓練について
訓練の参加者を増やすために事前に県士会ブログ、県士会 LINE、代議員へのメールで情報配信を実施中。訓練参加者：157 名（理事会開催時点）昨年度と比較し 5 倍の参加者→対象は正会員であり非会員は対象外
- (2) 理事役員災害時連絡訓練
9 月 29 日に終了。概ね適正に運用できたことを確認した。実施後以下の点を振り返った。
ア) メールが正規の連絡方法であるが運用の困難さを感じた。LINE では全員が活用できた。
イ) 実態に即したマニュアル変更する必要性を感じた。

5. ウェブサイト管理委員会

- (1) 他県士会のブログ掲載等に関する調査報告について各都道府県士会の状況に関して調査した。基本的には「お知らせ」という形で情報を発信している。一部はブログも活用しているが、各部や委員会が企画している研修会等の案内や関連団体の紹介などであった。個人でブログを掲載している会はなし。今後当会でも部・委員会に帰属する情報発信が望ましいと考える。
〈意見交換〉
○ブログの活用ではなく「掲示板」という形で運用し発信したい情報をウェブサイト管理委員会にて審査・管理で公開する方法を提案する。
○一定のルールを設けた場合に利用者への周知・共有が重要だと考える。周知は可能か。→個別対応可能。
○ブログをカテゴリ化して関連する部署へ今後の運用を含めて検討してもらおう方が良い。
○公的な情報の発信は必要だが基本的に私的な情報の発信は承諾できない。他県士会のルールも参考に当会における適正なルールを明確にしてほしい。
※今回の意見をウェブサイト管理委員会にて精査し継続して検討する。今後結果等を報告する予定。

6. 学会評議委員会

学会、臨床作業療法大会のマニュアルを作成中。

- (1) 第 5 回神奈川県臨床作業療法大会について（佐藤隼実行委員長より）
エントリー状況、広報活動の経過等について報告。理事役員から大会について周知参加の案内継続を依頼。
- (2) 第 19 回神奈川県作業療法学会について（大郷実行委員長より）
会場は茅ヶ崎市民文化会館 2023 年 10 月 15 日（日）の予約を完了。オンラインでの開催期間は 10 月 15 日～11 月 9 日を予定（日本作業療法学会との重複期間を避けるため）。一般演題募集は 2023

年 1 月より開始する予定。

学会開催支援業者により、①申し込み②参加費決済システム③ホームページ運営を行ってもらう予定。オンライン決済システムは GMO ペイを使用する予定でありセキュリティについては安全を確認済み。口述発表は一部会場発表を予定しているが一般演題は基本的にはホームページ上で動画発表とし質疑応答もオンラインで可能とする予定。

7. 地域包括ケアシステム推進委員会

- (1) 「横浜市フレイル予防研修会」での協力機関名称掲載について
協力機関として当会の名称を記載していただく。

【理事】

1. 田中副会長

- (1) 40 周年記念プロジェクトチームより
12 月に活動を終了予定。記念誌の印刷を進めており今後製本を関連団体等へ送付予定。チャレンジ動画は各養成校へ協力を依頼。編集は会員の木下氏に依頼。YouTube にも動画を公開する予定。

2. 澤口理事

- (1) リハビリ手帳に関して
改訂版の初版完成。理事役員に配布。意見を募る予定。

IV . 組織改編

1. 説明

- (1) 組織構成案の説明
各理事からいただいた意見・質問への回答と組織案の提案、今後のスケジュールを神保会長より説明。
- (2) 4 か年計画について
2023 年～2026 年度の 4 か年計画（中・長期計画）案について神保会長より説明。これを基に検討していく。

2. 意見交換・共有

2 グループで意見交換を実施。司会進行、書記、発表者を決めて、全体会で各グループの内容を共有した。理事会で意見交換シートを共有し今後の意見交換にも活用する。

3. まとめ

〈神保会長より〉

議論を重ねていくことが重要だと再確認できた。建設的で貴重な意見を多数いただいた。理事数や名称、役割などについても今後検討を継続したい。このたたき台を基に会員に向き合う組織づくりを進めましょう。

V . その他 連絡事項等

1. 議事録署名人について

吉本事務局長から指名があり決定する。神保会長、錠内監事、玖島理事、神田理事。

2. 11 月理事会について

以前より対面式での開催を検討してきたが、現状を踏まえて 11 月は会議室による対面式会議を準備する。詳細は追って連絡するが、今後の感染流行状況によってはオンライン開催を継続する。

今回の理事会は①通常の理事会②次年度事業・予算計画③組織改編の3部構成とする。

3. 2023年度事業・予算計画に関して

各計画立案のフォーマットを送付する。来年度を見据えた計画を立案するが、現組織構成での立案を依頼する。

4. 監事より

(1) 錠内監事

組織改編について議論が進んできた。今回のたたき台に各部署の事業を当てはめて確認してほしい。それを基に今後の活動の検討に役立ててほしい。

以上 (文責：事務局 吉本 雅一)

2022年10月度理事会 部員承認

【ウェブサイト管理委員会】

千葉 美並 昭和大学附属烏山病院

【選挙管理委員会】

池田 公平	神奈川県立保健福祉大学
廣瀬 智哉	東戸塚記念病院
田中 雅士	関東中央病院
高見澤 広太	介護老人保健施設都筑シニアセンター
中村 拓人	神奈川県立保健福祉大学

事務局からの お願い

- **届出内容を変更される方** 住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『登録内容の変更届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール(kaiin@kana-ot.jp)にてご提出願います。(随時受付)
- **退会される方** 年度内に退会予定の方は、**3月15日**までに『退会届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール(kaiin@kana-ot.jp)にてご提出願います (**上記日必着**)。

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ**公式ウェブサイト**のINDEXより、ダウンロード可能です。なお期日までにご提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落しとなり、返金を致しかねます。

編集 後記

あけましておめでとうございます。月日の移り変わりの速さに驚いている今日この頃です。徐々に行動制限がなくなり、今まで行ってきた作業を取り戻している感覚ですね。引き続き感染対策には気を付けながら、様々な活動をしていけると良いなあと思います。

皆様に様々な情報をお届けできるニュースの発行に努めますので、本年もどうぞよろしくお願い致します。

(さとめぐ)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース (219号) 2023年2月発行(年3回発行)

発行責任者 神保 武則
 編集責任者 佐藤 隼
 編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)
 山岡 洸(湘南慶育病院) / 佐藤 愛(悠の木株式会社) / 安田 優子(横浜旭中央総合病院)
 丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院) / 松井 洋鷹(淵野辺総合病院)
 碓屋 瑛理(佐藤病院) / 岩居 洋輝(佐藤病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所
 事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301号
 TEL/FAX : 045-663-5997
 月火水木金 10:00~15:00
 メールアドレス : jimur@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト
<https://kana-ot.jp> ➔ 作業療法 神奈川県 検索

Facebook <https://www.facebook.com/kaotwebkan>
 Twitter <https://twitter.com/kaotwebkan>

